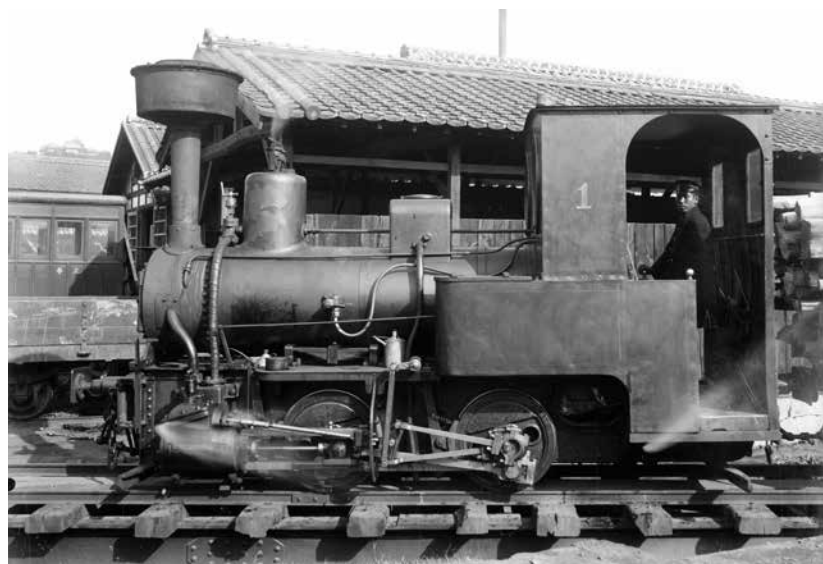


海鉄道に譲渡されている。

なお、釜石鉱山は、その後、民間によって復興を遂げ、釜石〜大橋間には新たな釜石鉱山馬車鉄道（1894／明治27年〜）が敷設されている。これを基に本格的な鉱山鉄道（1911／明治44年〜）となり、その後も運営形態を変えながら1965（昭和40）年まで運行を続けている。軌間は馬車鉄道時代から762ミリを採用する「軽便鉄道」だった。

1888（明治21）年には四国初の鉄道として愛媛県の伊予鉄道が開業した。当初は外側（松山）〜三津間で運行を開始、軌間は762ミリ。釜石鉱山、阪堺鉄道に続く「軽便鉄道」である。

明治の文豪として知られる夏目漱石は、伊予鉄道開業から数年後の1895（明治28）年、愛媛県尋常中学校（旧制松山中学、現在の松山東高校）に英語教師として赴任した。その経験をモチーフに小説『坊っちゃん』（『ホトトギス』第九巻第七号発表時）を書いているが、ここに「マツチ箱のような汽車」として伊予鉄道が出てくる。この作品を縁として、伊予鉄道はそれから「坊っちゃん列車」とし



762mm軌間で開業した「伊予鉄道」の1号機関車。ドイツのクラウス製。写真の1号機は鉄道記念物に指定され、松山市の梅津寺公園に保存されている（所蔵：鉄道博物館）